

## 2 出生率に与える要因等について

参考資料1-2

(1) 一般的に出生率に影響を与えると考えられる要因 (平成27年版 少子化社会対策白書等を参考に作成)

### 経済的負担

- ・出生動向基本調査の結果を見ると、理想の子ども数を持たない理由の1位は、「子育てや教育にお金がかかるから」。

### 未婚化・非婚化の進行

- ・生涯未婚率は30年前(1980年)と比較(2010年)して、男性は2.6%から20.1%、女性は4.5%から10.6%へ上昇。

### 晩婚化、晩産化の進行

- ・平均初婚年齢は30年前(1980年)と比較(2013年)して、夫は27.8歳から30.9歳、妻は25.2歳から29.3歳へ上昇。

### 男性の就業状況

- ・男性の就労形態別配偶者のいる割合を見ると、正社員の方がパート・アルバイトより高い傾向がある中で、非正規雇用割合をみると、1991年19.8%から2014年37.9%と増加している。

### 女性の就業環境

- ・育児と仕事の両立が可能な社会環境を整えてきた国においては、女性の労働力率を伸ばしながら出生率も回復してきている。特にフランスやスウェーデンでは出生率が1.6台に低下した後、フランス1.99、スウェーデン1.89と回復している。(2013年)

### 夫の労働時間、家事・育児参加

- ・夫の労働時間が長いほど、家事・育児関連時間が短い。家事・育児時間の国際比較: 日本1.07時間、フランス2.30時間、スウェーデン3.21時間。

### 子育て環境

- ・保育環境の整備(子育て機能の社会化)は、育児不安の解消及び育児負担の軽減につながる。

### 結婚観・家族観に対する意識の変化

- ・将来的に子供を希望しない人の割合が10年前(2003年)に比べて増加しているのに加え、子供を希望しない理由は「自由な時間がなくなる」との回答が最も多かった。(自分の時間を優先、子供に対する関心の薄れ)

## 2 出生率に与える要因等について

### (2) 神奈川の出生率が国よりも低いと考えられる要因について

#### 子育てや教育にお金がかかる (県アンケート結果より)

- ・ 各種アンケート結果で理想子ども数をもたない理由1位に選択されている。県アンケート第1位(37.2%)。1世帯当たり1ヶ月間の支出(教育)(2014年)を見ると、神奈川県は、全国平均値より高い。

#### 晩婚化、晩産化により出産に不安がある (県アンケート結果より)

- ・ 妻の初婚年齢、第1子出産年齢ともに全国46位(47位は東京都)(2013年)。県アンケート第2位(7.7%)「高年齢での出産に不安があるから」。

#### 家が狭い (県アンケート結果より)

- ・ 面積全国43位(2014年)、人口全国2位(2014年)、住宅敷地面積全国44位(2014年)。県アンケート、その他の理由第1位(16.4%)。

#### 夫の労働時間が長く、家事・育児参加率が低い

- ・ 神奈川県は全国一、通勤時間が長く(2011年)、必然的に夫の家事・育児参加の時間が少なくなる。

#### 人口に占める未婚者の割合が高い

- ・ 都道府県別生涯未婚率(2010年)は、男性が全国5位、女性が全国10位で、それぞれ全国値より1.83ポイント、0.12ポイント高い値。